

# シングルレバー混合水栓

SF-HB430S型  
SF-HE430S型

説明書に記載されている図が  
現品と異なる場合があります。

## 工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。  
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

## 1. 施工の前に

### 安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客様に引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

#### 用語および記号の説明

**注意** 「取扱を誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ 「注意しなさい！」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

⊘ 「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)

(禁止)

🔧 「分解してはいけません！」

(分解禁止)

👉 「指示通りにしなさい！」(一般的な行動指示記号です。)

(指示)

### ⚠ 注意

	湯水を逆に配管しないでください。水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
	給湯器の給湯温度設定は85℃以下でご使用ください。水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
	水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
	修理技術者以外の方は水栓を分解したり、修理したりしないでください。ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押えた配管設備にしてください。他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯音が急上昇しヤケドをする恐れがあります。	
	泡沫ユニットの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

### 本製品の仕様と条件

給湯温度設定	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(1)
使用環境温度	【一般地用】	0～40	但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地用】	-20～40	
給水給湯接続	PJ1/2		
圧力条件	0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧) 給水圧力 給湯圧力		
取付条件	水栓取付穴：24±2mm、カウンター厚：最大30mm		

1 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

ガス給湯器(比例式制御式：16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A + 0.07MPa(流動圧) Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

測定条件は次の通りです。

レバーハンドルは全開。

給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。

給水圧力はガス給湯器直前における流動時の静水圧です。

ガス給湯器の設定温度は最高温です。

貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa(流動圧)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20～0.34MPa)に減圧してください。

給湯に蒸気は使用できません。

不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60℃以下**をおすすめします。

### 施工前のご注意

#### 止水栓と点検口を設けてください。

取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。

使い勝手や性能発揮のために、**流量調節をしてください**。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

#### その他の注意点

給水は上水道に接続してください。

温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

逆配管では表示通りに湯が出ません。

給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。

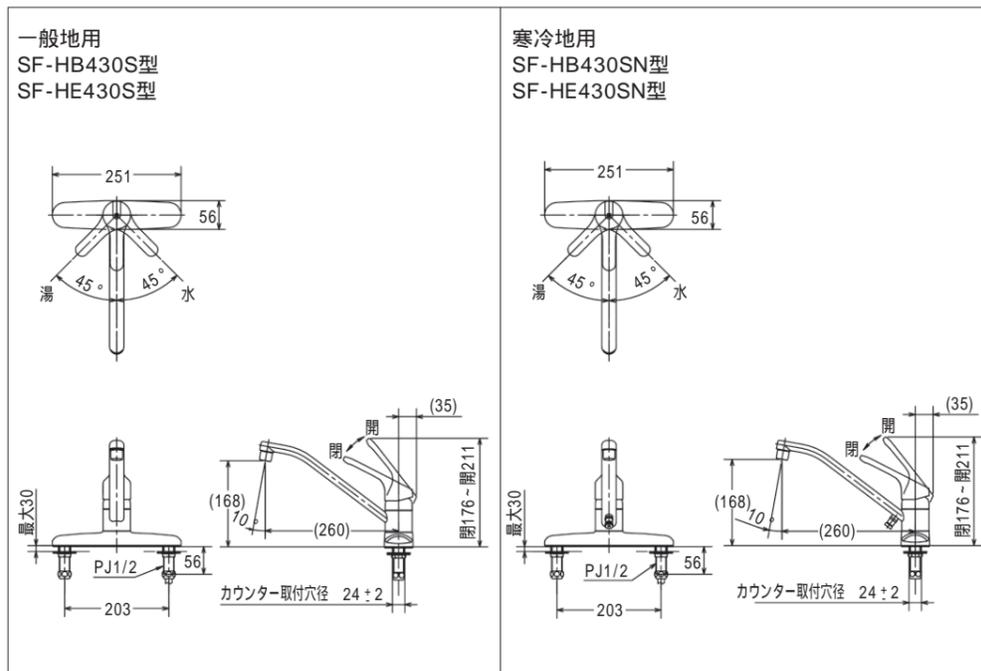
取付けに必要な専用工具(KG-1)を用意してください。

開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分注意してください。

取付後の保守点検のために必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。

必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください**。

### 施工完了図

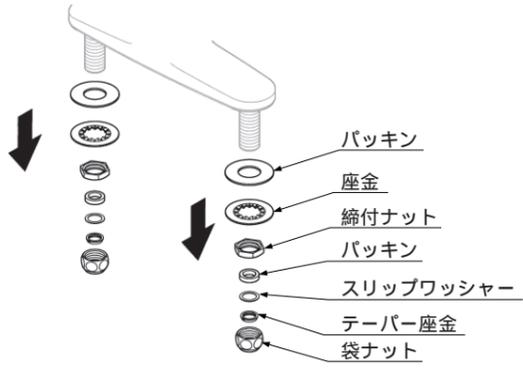


取付穴：24±2、カウンター厚：最大30mm

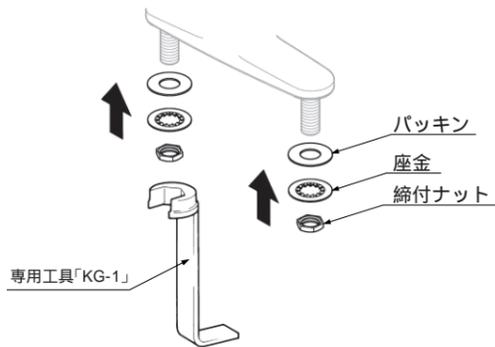
## 2. 施工方法

以下の手順で正しく取り付けてください。

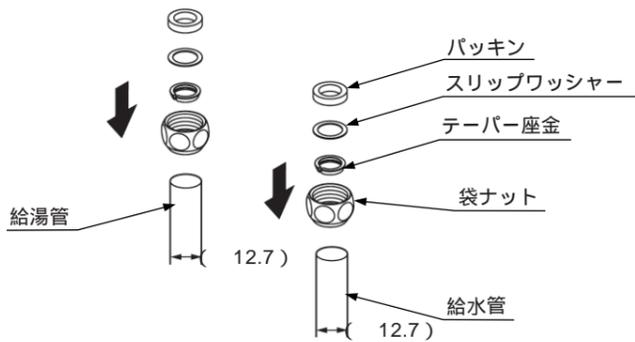
1. 水栓本体から本体固定用および給水・給湯管固定用の部材を取り外す。



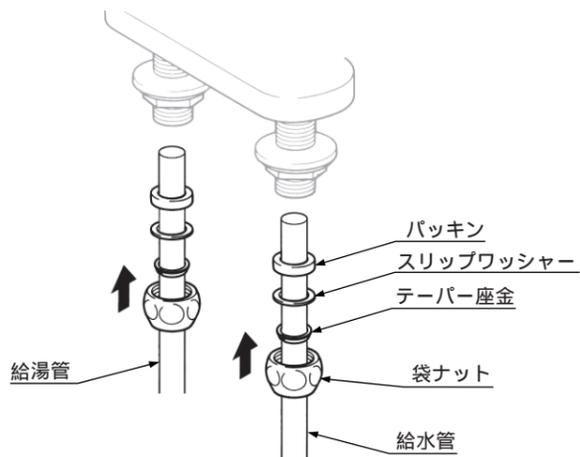
2. 本体をカウンターに設置し、別売の専用工具 (KG-1) を用い、締付ナットで本体をしっかりと固定します。



3. 給水・給湯管 (φ12.7) に袋ナット、テーパース座金、スリップワッシャー (金属) 及びパッキンの順序に組み付けます。



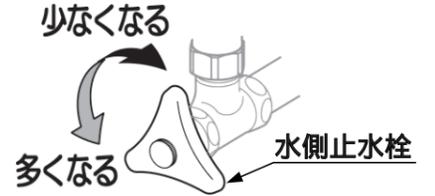
4. 給水・給湯管を取付脚に約20mm差し込み、袋ナットは、はじめに手でいっぱい締め付けてから、工具で3/4~1回転増締めしてください。(締付けトルク10~15N・m)



## 3. 施工後の調節

### 流量調節

水栓の機能を十分発揮させるため、水圧が0.20MPaを超える場合は湯と水の吐出量が同じになるように水側の止水栓を絞ってください。



## 4. 引渡し前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か?	-	「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか?	-	抵抗となる障害物を取り除く。
	止水栓は十分開いているか?	-	止水栓を十分開く。
	泡沫ユニットにゴミ詰まりはないか?	①	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	ゴミかみはないか?	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか?	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか?	③	カートリッジ固定ナットを締める。締過ぎるとレバーハンドルが重くなる場合がありますので注意してください。
希望の温度が得られない	圧力は十分か?	-	「使用条件」の項参照。
	流量調節はよいか?	-	「流量の調節」の項参照。
	泡沫ユニットにゴミ詰まりはないか?	①	ゴミ等を水で洗い流す。
レバーハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	④	ねじをしっかりと締める。

